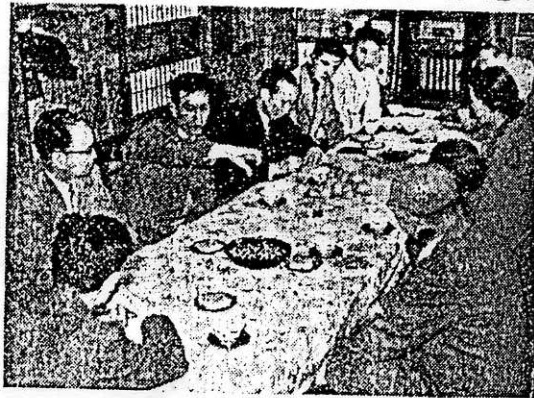


遠征までの経緯

1954/6

国産車国際

ブラジル遠征
画期的な企図



司会 先ず選手が遠征されるいきさつを藤田さんから。
藤田 ブラジルサンパウロ総領事から日本の外務省宛に
来た手紙は 125CC、250CC、350CC、500CCの4種
類で、各種毎に選手2名宛といますから、10名の招聘が
あつた。これは昨年9月4日付なんです。

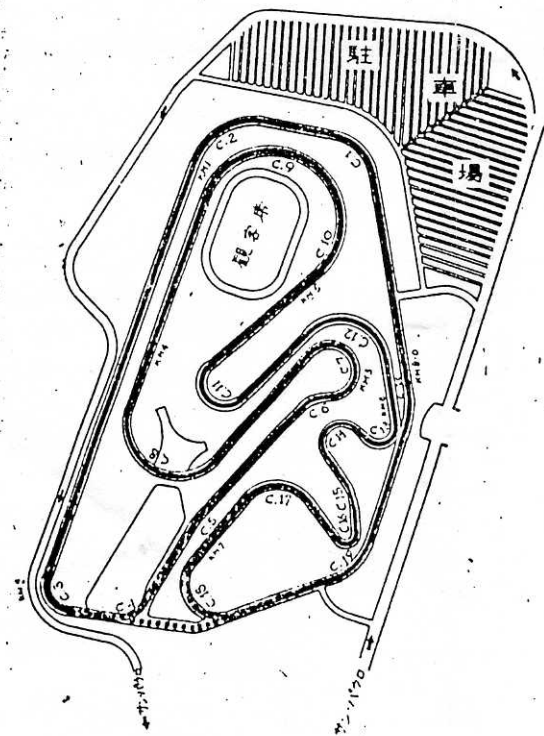
条件は①旅費滞在費礼金は主催者が負担する②使用車は
選手1人で4台まで③選手5名に修理員1名同伴その旅費
負担④申込メ切1953年11月30日限⑤船、航空路どちらでも
よい——それから選手、10名修理工2名となる場合は団長
を派遣することができる。その場合の費用も主催者で負担
する——こういうわけです。

所が、どうしたわけかその手紙が迷い子になつて連合会
に通達されたのはメ切当日だったので。で取敢えず参加
の旨を24日に電報して実行委員会を設けて準備に入り、出
走者をメーカーにおねがいしに奔走したり、選手の選考を
したりして遠征選手団を決定したので。

このとき参加したレーサーはメグロ4台、キャブトン3
台、ポインター2台、ドリーム1台、モナーク1台計11台
で、これを外務省から正式申込んだのが12月15日でした。

1.13 羽田空港を飛ぶ

司会 どうして通達がおくれたのでしょうか。ブラジルの
走 路



邦人からサンパウロ 400年祭でオートバイレースが開催さ
れるから、国産車を参加させてほしいという手紙が私ども
の所に参りましたのは昨年11月中旬だと思いますよ。

藤田 お役所でも方々持ち廻つて漸く連合会に持ち込ん
だらしいのです——とにかくこうしたわけで、申込が半月
もおくれたので主催者側では予算がなくなつたからと断
りが参りました。その後数次の交渉で漸く10万クロセル
だけ出すときまりました。これは80万か90万円程度で航空
旅費だと1人分くらいでどうにもなりません。その他滞在
費などメーカーの負担は大変になる——しかも期日がな
いので航空以外では間に合わないという状態で、いろいろ困
難なことになりましたが、幸い日黒製作所ではメグロ 50
CCと田代選手、本田技研工業からドリームと大村選手を
国産車海外紹介のためぜひ参加したいとの協力を得まし
て、なんとか日鼻がつきました。本田さんでは外に馬場さ
んが商用をかねて行かれるというので、マネージャとして
連絡その他をお願いし、1月13日午後8時半羽田空港を飛
び立つたわけです。

なに分、国産車を掲げて国際レースに出走するというの
は初めてで、もち論優勝などの野心などなく、国際レース
の実際を体験し、今後国際的に進出するキツかけをつける
ということで皆さんに御無理を承知でお願いをし、選手諸君
にも御苦勞を願つたのですが、帰つてからの報告ではそれ
だけのことがあつたと思います。

晴れの場所で国産車を

司会 村田さん、御宅では物質的にも大変な負担をされ
たし、車の準備や田代さんのことでも非常な苦勞をされま
したが、その苦心談を一つ……